

ご遺族の方々へ

本日は深い悲しみの中、病理解剖を承諾していただきましたことに衷心より敬意を表し、深く感謝を申し上げます。病理解剖の結果が蓄積されることによって、他の方法だけでは得られない医学の進歩への貢献が期待されます。そのような意味で、われわれ医療に従事する者は、病理解剖を個人がなしうる社会への最後の貢献だと考えております。

病理解剖で肉眼的に詳しく観察してわかったことは、本日立ち会った担当医師より説明させていただきます。この段階での報告は、医学的には「暫定(ざんてい)剖検(ぼうけん)報告」と呼ばれているものです。以下、その先の流れをお伝えしておきたいと思います。

解剖が終了した後、担当病理専門医は保存した臓器や組織を再度詳しく調べ、当病院の病理診断科が必要な臓器や組織の顕微鏡標本を作製します。そして、その50枚以上の顕微鏡標本を病理専門医が詳細に検討し、生前に患者さんの身体に起きていたこと(病態生理)を解明していきます。これは死因だけでなく、病気の原因となったものを探り、病気の本態を明らかにするとともに、その病気によって全身にもたらされた変化を明確にする作業です。その剖検診断の結果を「最終剖検報告書」としてまとめるまでには、3か月以上の時間を要します。

最終的な剖検診断の結果について知りたいと思われる方は、当院医事課までご連絡ください。ただし、その報告書については次のことをご理解いただきたいと思います。

肉眼的な観察で得られた結果が、その後の顕微鏡による観察で覆ることはほとんどありません。長い時間をかけて最終的な報告書を作成するのは、患者さんの身体から得られる医学情報を漏れなく詳細に残すことが目的です。この報告書は、私たち医療関係者が当病院で行われた医療を自ら検証し、さらに今後の医学・医療の発展に役立てるために用いられます。また、日本病理学会が作成する、日本中で行われた病理解剖の医学情報を集めた『日本剖検(ぼうけん)輯報(しゅうほう)』にも掲載されます。そのためには医学的な正確さが最も重要となりますので、報告書は一般の方々にはわかりにくい医学用語の羅列になっています。

当病院では、残されたご遺族の悲しみを少しでも和らげ、病理解剖によってどのようなことが明らかになったのか、それが医学や医療にどう役立てられていくのかを知っていただくために、秋に開催する慰霊祭の当日、希望なさるご遺族に対して、病理専門医が病理解剖の結果を直接説明させていただく機会を設けております。その年度の対象となる、前年7月からその年の6月までに亡くなられた方に慰霊祭のご案内を差し上げる際に、ご希望をお尋ねしますので、返信はがきにてお知らせください。なお、大変申し訳ないのですが、ご説明は慰霊祭の前後の時間を利用して行いますので、1組のご遺族に10分程度の時間しかとれないことに加え、希望なさるご遺族が多い場合には2時間程度お待ちいただくこともあるという点をご了承くださいますよう、お願い申し上げます。

その他、剖検診断についてご不明な点やご希望がある場合には、当病院医事課までご連絡ください。(TEL:03-5214-7727)

東京通信病院 病理診断科
部長 田村浩一